

【創育クリエートメールマガジン vol.4】 [私立中学入試を振り返る]

2018.3.2 発行

日頃は格別のご愛顧を賜りまして、ありがとうございます。

本メールは、弊社、創育クリエートが送信元となり、森上教育研究所の協力のもと、教育業界に関するさまざまな情報をお届けするメールマガジン「創育クリエートメールマガジン」です。

なお、本メールは、日頃お付き合いのある、学校関係者様、企業ご担当者様、以前にお名刺を交換させていただいた方へお送りしています。

さて、第3回「東ロボくんが教えてくれたこと」はいかがでしたでしょうか。

第4回は、「私立中学入試を振り返る」がテーマです。

ぜひ御愛読いただければ幸いです。

＝私立中学入試を振り返る＝

1月10日埼玉県から始まった今年首都圏私立中学入試はトピックの多いものとなりました。

トピックの1つは受験率の上昇です。リーマンショック前2008年の14.8%をピークに、なだらかな下降線を描いていた1都3県の中学受験率。2015年に底を打って上昇傾向に転じていましたが、今年は13.7%まで回復しました。その要因の1つには景気回復がありますが、大学入試改革の影響も少なくないと考

えられています。大学入試改革の着地点が見えてくるにつれ、これにいち早く対応している私立中学への期待感が受験率を押し上げています。ここ3年あまり、多くの私立中学の学校説明会では、大学入試を含む高大接続改革への対応について熱心に説明されており、こうしたメッセージが保護者に響いていると思われます。受験率が上昇する一方、上位校を中心とした人気校とそうでない学校との二極化もはっきりしてきました。

2つめは大学附属・系属校人気です。この傾向は昨年から見られましたが、今年の特徴は男子の志願者が伸びたことです。これまで上位層を中心に進学校志向が強かった男子ですが、大学入試改革への不安から大学受験を回避する層が増えたと思われます。附属校人気の背景には「グローバル化」もあります。大学受験を意識することなく過ごすことで、中学・高校の間に留学できることが魅力の1つと捉えられているのです。

3つめのトピックは英語入試の広まりです。必須・選択入試を合わせると、3分の1の私立中学が英語入試を実施しました。試験方法も多様化し、これまで行われていたペーパーテストやインタビューに加え、英検を活用するものやゲームなどのアクティビティを課すものも登場しました。

4つめは、マスコミでも話題となった思考力入試です。これまで公立中高一貫校と同じ形式の適性検査型入試が多くの学校で行われてきましたが、これに加え、ここ3年ほどで思考力を評価する新たな入試が登場しています。適性検査型と思考力入試を合わせると、実に首都圏の4割の私立中学でこうした入試が実施されています。これまでもグループワークやレゴ・ブロックを活用したも

の、プレゼンテーションなど、様々なタイプの入試が行われてきましたが、今年
はプログラミングを取り入れた入試が登場し、新聞等でも紹介されました。

英語入試、思考力入試には、新たな大学入試と方向性を同じくすることで、高
大接続改革が目指す学びをアピールすると同時に、大学入試改革への対応をア
ピールする、私立中学の狙いがあります。

難関校の4科型入試においても、論理的思考力や表現力を問う問題が増え、
ここにも大学入試改革の影響が現れています。

来年に向けて、慶應義塾湘南藤沢中等部が算数・国語・英語の3科入試の実施
を発表しており、首都圏の私立中学入試はさらなる変化が予想されます。

(執筆：森上教育研究所アソシエーツ 高橋 真実)

いかがでしたでしょうか？

次回も皆さまにとって有益となるような教育情報のメールマガジンを配信でき
るよう努めて参りたいと思います。

なお、本メールマガジンですが、内容等についてのご意見、アドレス変更、配信
停止については末尾のE-mail アドレスよりご連絡をお願いいたします。

■送信元：株式会社 創育クリエート

東京都港区西新橋3-24-3

T E L . 03-5472-5772

create@soiku-c.co.jp